株式会社エンプラス

（証券コード:6961）

よりよき明日を目指して

2024年3月期（第63期）中間報告書

2023年4月1日から2023年9月30日まで

Enplas

株式会社エンプラス

Contents

01.企業理念

02.株主の皆様へ

04.連結業績の推移

05.事業別概況

06.ESGの取り組み

07.Digital Communication事業の光通信関連とは

09.会社概要/株式情報/株主メモ

10.グローバルネットワーク 国内ネットワーク

巻末.グローバルネットワーク 海外ネットワーク

企業理念

使命
独創的アイデアを総合技術で価値ある製品に変え、
より良い未来を支えます

経営姿勢
強靭な経営基盤をもとに、創造と挑戦を繰り返し、
自ら変革し続けます

行動指針
信頼こそ全ての基本
・謙虚な姿勢と感謝の心を大切にします
・公明正大に行動します
・新たな価値の創造に挑戦します

株主の皆様へ

私たちはソリューションプロバイダーとして、より良い未来の実現に向け、さまざまな企業活動に取り組んでおります。

代表取締役社長　横田大輔

Q 上期の経営実績と事業環境についてお話しください。

当第2四半期連結累計期間の売上高は19,200百万円（前年同期比9.0%減）となり、営業利益は2,616百万円（前年同期比39.9%減）、経常利益は3,095百万円（前年同期比31.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,798百万円（前年同期比2.1%増）となりました。

各セグメントの業績につきましては5ページに掲載しております。

世界経済は、インフレ率の鈍化や利上げ一巡により持ち直している一方、物価高の再燃、中国経済の景気減速懸念、地政学的な緊張の高まりなど、先行き不透明な状況が続いております。

そのような状況の中、当社では「競争力強化による成長の実現」を第63期の経営基本方針として掲げております。新しいものを生み出す開発投資、既存事業を更に伸ばす成長投資、それを成し遂げる人への投資を行う事で、競争力を強化し、成長の実現につなげてまいります。

Q 下期の取り組みについてお話しください。

Semiconductor事業は、半導体需要の調整は、当初想定より長引いているものの、特に当社が注力しているサーバーや自動車用途の需要は中期的には増加傾向が続くと予想しております。変化への対応に向けたディマンドチェーン構築、サプライチェーン強化、ソリューション開発体制の強化を事業戦略としております。

Life Science事業は、遺伝子検査装置に使われるチップ（デバイス）を製造しており、人々の健康意識の高まりにより、遺伝子検査市場も成長が見込まれると考えております。顧客の生産調整等が継続しておりますが、今後はコスト構造の見直しおよび高機能・高付加価値デバイスに特化した提案を加速させ、収益改善を進めてまいります。

Digital Communication事業では、光通信関連につきましては、AI用途等のハイエンド領域が伸張しております。生成AI技術の進展、社会実装の始まりによる生成AI市場の拡大が見込まれていることから、VE（Value Engineering）提案とサプライチェーン強化による高いシェアの維持・拡大を事業戦略としております。

株主の皆様へ

Digital Communication事業のLED用拡散レンズは、既存領域の収益性確保と、新ソリューションの開発に注力してまいります。

Energy Saving Solution事業では、環境車への流れが加速すると考えており、欧米中を中心としたEV需要の取り込み、低騒音・高効率ギヤソリューションビジネスでの成長を進めてまいります。

Q 中長期の考え方についてお話しください。

当社経営の生命線は「新規性の追求」にあると考えており、お客様や関係する機関とこれまでに築き上げてきた信頼関係のもと、継続的に研究開発を行い、次の事業の種を蒔いております。

事業ポートフォリオにつきましては、当社は今後、よりEssentialな領域に注力してまいります。Essential領域とは、人と地球のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を高める領域であり、具体的には環境負荷を減らし、人々の健康で安心安全かつ快適な生活を支える領域と定義しております。

Semiconductor事業とLife Science事業は事業自体がEssentialな領域であり、マーケット自体も成長領域です。Digital Communication事業とEnergy Saving Solution事業は、捻出した利益をEssential領域に振り向けるとともに、Essentialな領域へと業態転換を進めてまいります。

Q 株主還元についてお願いします。

当社は、健全・堅実な経営により強固な財務体質を堅持するとともに、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様に還元することを基本方針としております。

上記の基本方針と当期の業績等を総合的に勘案し、中間配当については1株当たり30円、期末配当については1株当たり30円とし、年間60円を予定しております。

Q 株主の皆様に一言お願いします。

当社は、創業以来、素材開発、プロセスエンジニアリング開発、評価技術開発を推進し、それまで不可能と考えられていたものを製品化、量産化することで、世界中のお客様と共に、豊かな社会の発展に貢献してまいりました。

金属ギヤの代替から始まった当社の事業も、今では、半導体、ライフサイエンス、モビリティ、高速光通信などの幅広い分野に展開し、これまでに培った技術基盤をもとに、お客様の価値向上につながるソリューションを提供しております。

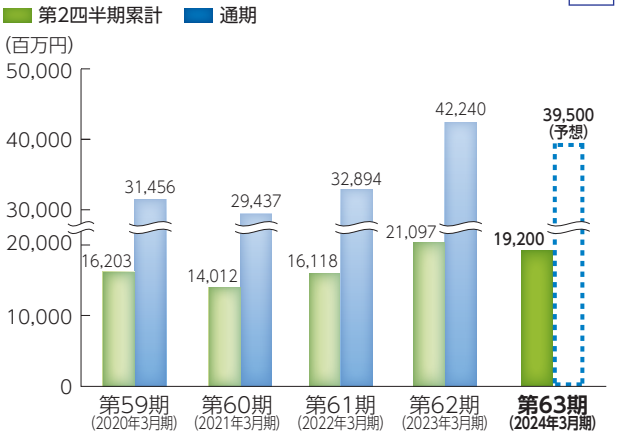
現在、環境問題や、高齢化社会、より高度化する情報社会など、持続可能な未来へ向けた課題が浮き彫りになっています。当社は、人と地球のQOLを高めるEssentialな事業分野において、これらの社会課題を解決し、持続可能な社会に貢献できるソリューション技術の展開、開発を進めてまいります。

不連続な変化が当たり前におこる現在の世の中においても、変化に即応できるスピード感を持ち、当社の技術力をさらに磨きながら、幅広い産業の未来課題の解決に挑戦してまいります。

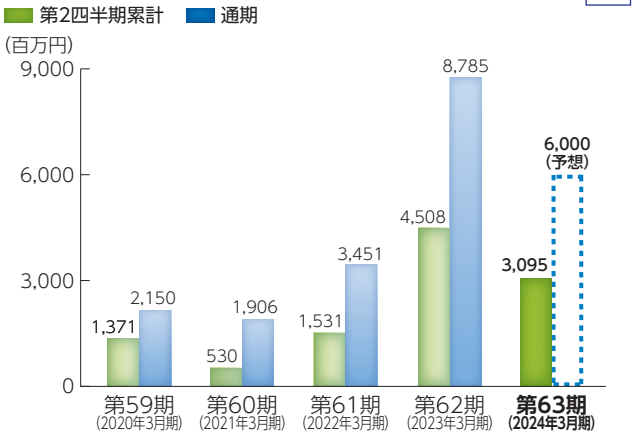
今後とも、株主の皆様にはより一層のご支援とご鞭撻を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

連結業績の推移

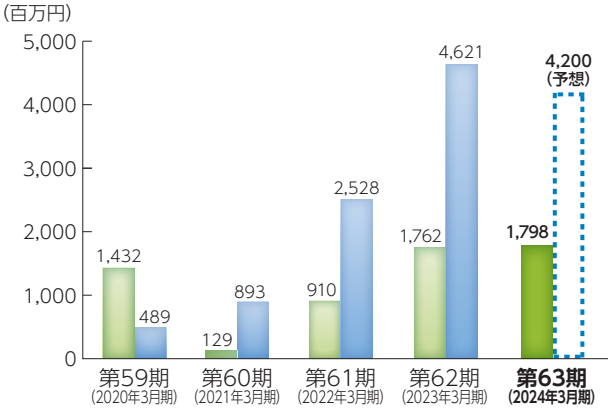
■連結売上高 1



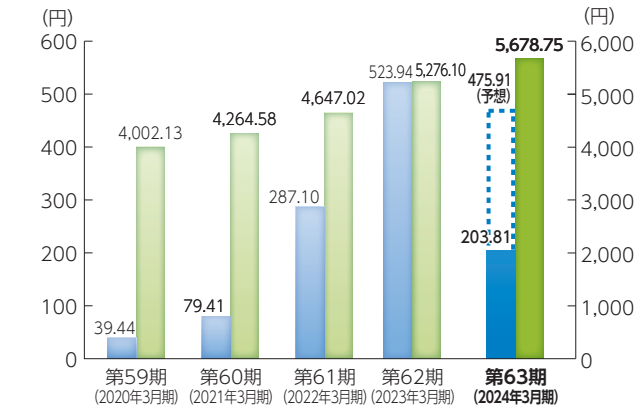
■連結経常利益 2



■親会社株主に帰属する連結四半期（当期）純利益 3



■1株当たり四半期（当期）純利益／1株当たり純資産 4

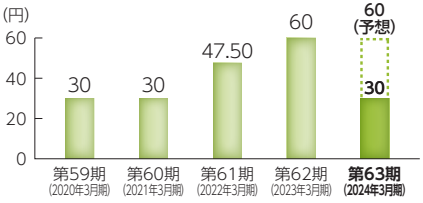


株主還元について

1株当たり配当金60円

当社では、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様に還元することを基本方針とし、また、安定的配当の考え方も取り入れ、今期以降の業績予想を勘案して、中間配当を含む年間配当は1株当たり60円を予定しております。

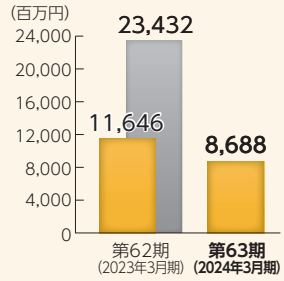
■配当金



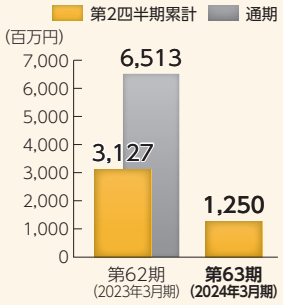
事業別概況

Semiconductor事業

■ 売上高



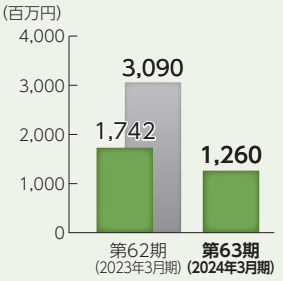
■ 営業利益



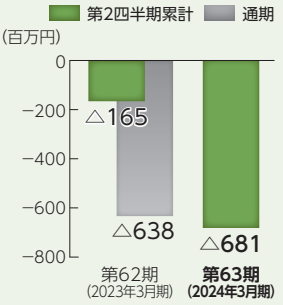
各種ICテスト用ソケット、バーンインソケットは、自動車用途は底堅く推移しましたが、サーバー、モバイル用途は低調に推移しました。特に当社が注力しているサーバーや自動車用途の半導体需要は中期的には増加傾向が続くと予想され、売上高も堅調に推移すると見込んでおります。

Life Science事業

■ 売上高



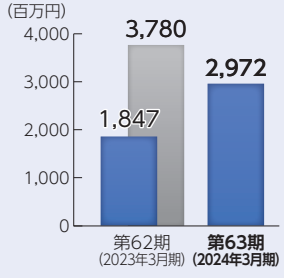
■ 営業利益



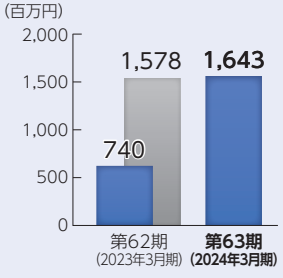
遺伝子検査用製品は、顧客の生産調整が継続し、売上高は低調に推移しました。なお、当該Life Science事業には、新規分野への先行投資や新事業開発が含まれております。

Digital Communication事業

■ 売上高



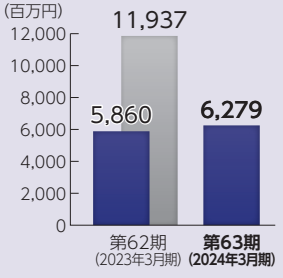
■ 営業利益



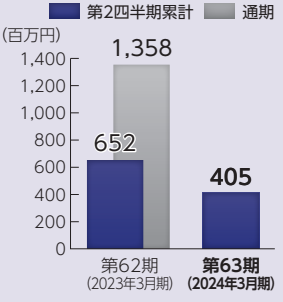
光通信関連の光学デバイスは、AI用途等のハイエンド領域において高いシェアを維持し、売上高は好調に推移しました。LED用拡散レンズは、液晶テレビ市場の需要減少が継続し、売上高は低調に推移しました。

Energy Saving Solution事業

■ 売上高



■ 営業利益



自動車用部品は自動車の生産回復、自動車の電装化に対応した低騒音・高効率ギヤソリューションビジネスの拡大により、売上高は堅調に推移しました。

ESGの取り組み

Environment（環境）

環境方針

エンプラスは、エンジニアリングプラスチック及びその複合材による、高精度・高機能プラスチック精密機構部品・製品の開発、製造、販売に関わるあらゆる面で、地球環境の保全を企業の果たすべき重要な課題として捉え、その保護活動に積極的に取り組みます。

1.環境目標を設定し、それを達成するために全社的な環境管理システムを構築し、継続的な改善向上を図ります。
2.業務の合理化や改善等を通し、環境負荷の低減・省エネルギー（電力使用量等削減／CO_2削減）を推進します。
3.廃プラスチックの削減と再資源化を推進します。
4.サプライヤーとの協働により調達品の環境負荷低減に努めます。
5.環境規制や環境協定等を順守します。
6.企業活動から汚染を排出しないようその予防に努めます。
7.社会の一員として、地域の環境保護や維持に貢献します。

≪適用範囲≫

組織の単位・物理的境界		区分	適用範囲
株式会社エンプラス	グローバル本社	自己宣言	エンジニアリングプラスチック及びその複合材料によるプラスチック精密機構部品・製品の開発、製造
	本社	自己宣言	
	鹿沼工場	審査登録	
国内グループ会社	株式会社エンプラス研究所	自己宣言	
	株式会社エンプラス半導体機器	自己宣言	
	QMS株式会社	自己宣言	

Social（社会）

エンプラス品質方針

お客様に感謝されるより良い品質の製品とサービスを提供します。

1.エンジニアリングプラスチックを基盤とした総合技術による確かな品質で、世界市場のニーズに応え、社会の発展に貢献します。
2.法令、規制、お客様の要求事項を遵守し、お客様から信頼を得られるよう行動します。
3.品質マネジメントシステムの継続的な改善により、あらゆる変化に対応できる品質基盤を堅持します。

2020年6月10日改定

Governance（ガバナンス）

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社の経営方針・企業精神・企業倫理を具現化したものが企業理念であり、社会の発展に寄与すべき企業使命を明確にするとともに当社のコーポレート・ガバナンスの基本原則となっております。その企業理念に基づき、持続的な企業価値の向上を実現する為に、「エンプラス コーポレート・ガバナンス ポリシー」を制定し、コーポレート・ガバナンスの継続的な充実に取り組んでおります。

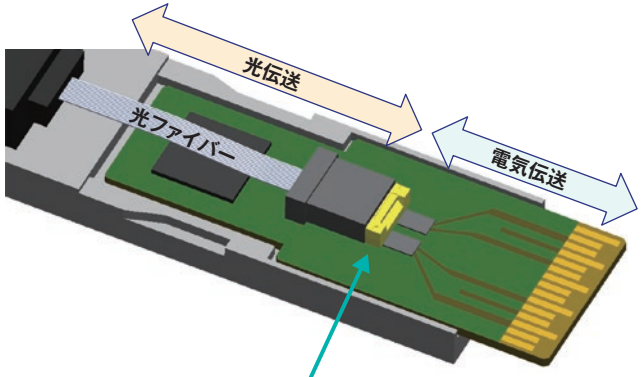
Digital Communication事業の光通信関連とは

生成AI向けのサーバーが増えている中で、サーバー間の通信に使われる光トランシーバーのニーズが高まっております。
当社の光通信用レンズは、サーバー間の通信モジュールの中に使われております。

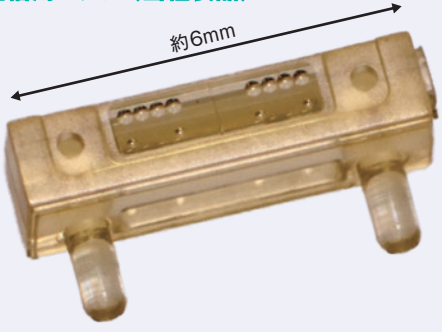
光トランシーバー

光トランシーバーとは…
“光”と“電気”を変換するためのモジュール

光トランシーバー内の構成イメージ



光電変換部
光通信用レンズ（当社製品）



光電変換部のレンズの役割は…
光ファイバーとレーザー・フォトダイオードを高効率で光学的に接続すること

光トランシーバー挿入部

光トランシーバーはスーパーコンピューター等で使われています。

※写真はFZJ様より御提供いただきました
http://www.fz-juelich.de/portal/forschung/information/supercomputer/juropa

Q Digital Communication事業の売上はなぜ伸びているのですか。

A 生成AI向けサーバーで使われる高速通信に対応した光通信用レンズが大きく伸びて増収となりました。

Q 生成AIとは何ですか。

A 生成AIとは、画像や音声、文章などのデータから新しいデータを自動生成する技術です。例えば、ChatGPTなどが世の中で使われ始めています。

Q エンプラスにとってどのような事業機会がありますか。

A Semiconductor事業では、AI用サーバーの増加に伴い、ICテスト用ソケットの検査需要が増えると考えております。
Digital Communication事業では、AI用サーバーで使われる光トランシーバーが増えることで、光通信用レンズが多く使われるようになります。

Q 開発状況について教えてください。

A 光通信用レンズに求められる性能が今後も高まっていくと考えており、当社は次世代規格として、より薄く、より小さく、高精度なレンズを開発しました。

1.6テラbps向け開発品

会社概要/株式情報/株主メモ

（2023年9月30日現在）

会社概要

商　　号	株式会社エンプラス
所 在 地	埼玉県川口市並木2丁目30番1号
設　　立	1962年2月21日
資 本 金	80億8,045万円

取締役

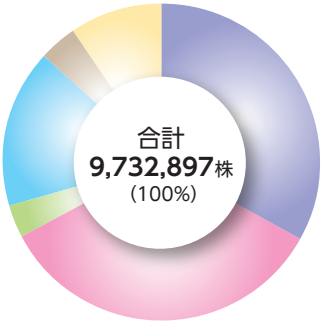
代表取締役社長	横田　大輔
取締役兼常務経営執行役員	宮坂　章司
取締役兼経営執行役員	藤田　慈也
社外取締役（監査等委員）	井植　敏雅
社外取締役（監査等委員）	久田　眞佐男
社外取締役（監査等委員）	天羽　稔
取締役（監査等委員）	當間　和幸

（2023年9月30日現在）

株式情報

発行可能株式総数	62,400,000株
発行済株式総数	9,732,897株
株主数	2,507名

■ 所有者別株式分布状況



- 個人・その他　3,226,422株（33.1%）
- 金融機関　3,321,331株（34.1%）
- その他国内法人　326,597株（3.4%）
- 外国人　1,587,128株（16.3%）
- 証券会社　367,203株（3.8%）
- 自己名義株式　904,216株（9.3%）

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
郵便物送付先、連絡先	〒168-8507　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社　証券代行部（お問い合わせ）　0120-288-324
基準日	定時株主総会の議決権　3月31日
公告方法	電子公告（https://www.enplas.co.jp/） ただし、電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載する方法とします。 貸借対照表、損益計算書は、決算公告に代えてEDINET（https://disclosure.edinet-fsa.go.jp/）にて開示しております。
上場金融商品取引所	東京証券取引所

グローバルネットワーク

■ 国内ネットワーク

グローバル本社
東京都千代田区丸の内1丁目6番2号 新丸の内センタービルディング9F

本社
埼玉県川口市並木2丁目30番1号

本社

鹿沼工場

株式会社エンプラス半導体機器

QMS株式会社

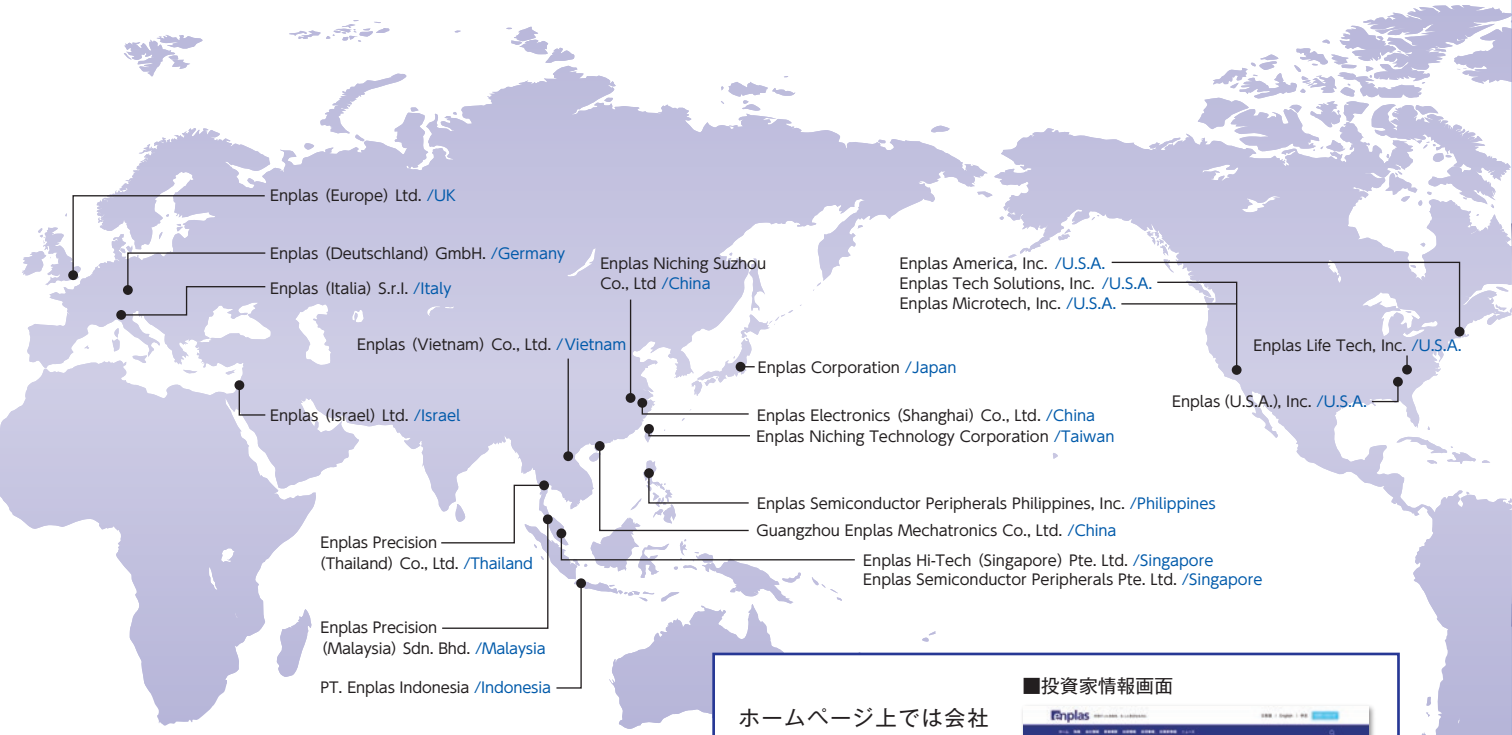
株式会社エンプラス研究所

グローバルネットワーク

■ 海外ネットワーク

技術の絆。信頼の絆。活躍の舞台はグローバルです。

アジア、アメリカ、ヨーロッパにある世界拠点を結ぶグローバルネットワークによって24時間稼働し続ける「エンプラス」グループ。こうしたグローバルネットワークを通じて、企画・開発段階から、各産業界のトップメーカーと技術に裏打ちされた信頼のパートナーシップを構築。世界企業としてエンプラスは、さらに大きく羽ばたこうとしています。



ホームページ上では会社概要、財務情報をはじめ業務内容やプレスリリースなど最新の情報を幅広くお知らせしています。ぜひご覧ください。

エンプラス IR　検索

■投資家情報画面

株式会社エンプラス
〒332-0034 埼玉県川口市並木2丁目30番1号
Tel：048-253-3131（代表） Fax：048-255-1688
https://www.enplas.co.jp/

UD FONT
見やすいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。

FSC ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
www.fsc.org FSC® C009249

VEGETABLE OIL INK